

登録番号 第 22458 号

MIC シロノック®1 キロ粒剤 51

- 特長：
- 移植時から使用できる水稻用一発除草剤です。
 - ノビエに対して長期残効を示します。
 - ALS 阻害剤抵抗性雑草（アゼナ、コナギ、ホタルイ等）にも高い効果を発揮します。
 - 畦畔から侵入するイボクサ等にも優れた効果を示します。

有効成分	カフェンストロール（化管法第1種）・・・3.0% ダイムロン・・・6.0% ベンスルフロンメチル・・・0.51% ベンゾビシクロン（化管法第1種）・・・2.0%	包装	1kg×12 4kg×4
その他化管法該当成分	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩（アルキル基C=10～14及びその混合物）（化管法第1種）・・・1.2%		
性状	類白色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

2019年11月06日付内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ダイムロンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカ クログワイ オモダカ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	1kg/10a	1回	田植同時散布機で施用	3回以内 (育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)
		移植直後～ ビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで			湛水散布	
直播水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカ	稲1葉期～ ビエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前まで	1kg/10a	1回	湛水散布	2回以内

カフェンストロールを含む農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数	ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数
1回	2回以内	3回以内

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、クログワイ、オモダカは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- (3) オモダカ、クログワイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。また、オモダカ、クログワイに有効な後処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- (4) 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (5) 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を田面に均一に散布すること。
- (6) 本剤処理後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意すること。また散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。止水期間中の入水は静かに行うこと。
- (7) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- (8) 直播水稻栽培では、稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので、注意すること。
- (9) 散布後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさけること。
- (10) 補植は必ず散布前に行うこと。
- (11) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - 1) 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
 - 2) 軟弱な苗を移植した水田
 - 3) 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
 - 4) 稲の根が露出している水田
- (12) 処理後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- (13) 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (14) 空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (15) 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- (16) 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、水管理を適正に行うこと。
- (17) 本剤は、移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用すること。
- (18) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項-----

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。